

フライビنزのおいたち

全国フライビنز組合連合会
理事長 米 山 末 辰

フライビنزは、奈良県が発祥地で昭和10年頃から大和蚕豆として製造を始めた。

大阪府の南河内あたりは一寸豆の産地であった。その関係もあって現在の奈良県のフライビنزが発祥した。当時フライビンは栄養食品であったが、終戦の為ある程度中断した。終戦後昭和25年頃から又復活した。

その当時は食糧難で、農家が裏作として、かなりの量の蚕豆を生産した。

フライビنزが高級品として幅広く販売される様になった。

昭和30年頃から輸入原料が少し入る様になりその後次第に増加して行った。

日本が経済成長に入り量的にかなりの生産が出る様になった。奈良やまとは、なたね油もかなり生産されたので、そのおかげで増産も出きた。又奈良は田舎であるから、フライビンは一粒ずつ人間の手によって筋（すじ）を入れていたが当時は人材もたくさんあった。昭和30年頃からムキビンの機械を購入しムキビンの大量生産に入った。

せんべい、砂糖かけ、九州ではチェリー

豆が大量販売になった。

昭和32年頃には長崎五島列島、岐阜県飛騨の蚕豆が大量に入ってくる様になったので、昭和40年頃迄はそれを中心に輸入物と共に大量生産していた。

昭和38年頃からは中国産の原料に代わってきた。

組合は、昭和24年頃奈良県フライビنز協会組合として設立した。当時は砂糖、油が、配給制度であった為24社が組合に加入していた。1年に6回位の会合を開き、組合活動は盛んであった。

昭和30年代は燃料油の不足等があり、組合として何度も県に足を運んで、組合員一いちがん同一丸となって活動した。

東京オリンピックが決まって30年代は、経済成長の盛りで豆はビールの友として、かなりの売り上げがあった。

関東地区は好景気で奈良としても関東へかなりの売り上げがあった。

組合としては、共同仕入の話し合いが何度も起きた事もあり、そのたびに総会を開いたが、現実にはむずかしい問題があり実現は出来なかった。オリンピックが終わる

と昭和40年に大不況があり、一時的に奈良の組合としてもかなり苦しい時期であった。

昭和42年頃から景気が回復し日本経済も、輸入原料が入ってくる様になり公害問題が毎日の様に新聞紙上を賑わしていた。

フライビンズ業界も公害として、臭い水、重油の煙の問題が起きて非常に困った。

対策として工場の移転の話し合いが何度も行われた。県にもフライビンズ団地の要請に、何度も陳情にも行ったが結局業界の数が少ない為実現は出来なかった。各自が工場を移転する事になった。

昭和45年に万博が開催され関西は好景気にうるおい、奈良県フライビンズ協同組合の豆の増産は活発になった。組合員も増え一時は奈良県フライビンズ協同組合だけでも25社にふくれ上がったがやがてだんだんと減って行き20社迄に減った。

昭和48年頃には全国フライビンズ組合連合会を発足し奈良県を中心に、阪神地区、四国地区、山陰地区を一つにまとめて中央フライビンズ加工業組合を発足、九州に九州フライビンズ加工業組合、東京地区に東京都フライビンズ加工業組合がそれぞれ発足した。

この四団体が全国フライビンズ組合連合会として、全国豆類振興会の組合員となっていていつもお世話になっている状態である。

全国豆類振興会によって、輸入業者や組合員の総会に於いていろいろな話を聞かせていただき、それによって我々全国フライビンズ組合連合会の組合運営の参考にし、

各組合員が努力をしている状態である。

昭和40年後半から50年にかけて香港で製品の製造が始まり日本に向けての製品輸入が活発化し始めた。日本経済も成長の途にあり人件費、原料の安い香港の安い製品が大量に入りかけて来た。入った製品は日本の国でほとんど消費された。

50年代に入って香港から中国本土に代わり大量に生産出来る様になった。

日本の国も50年後半から60年にかけて、販売低調になり非常に困難な時代であった。日本豆類基金協会からPR費をいただき宣伝をしているが、それによって全国フライビンズ組合連合会の関東地区、東北地区の売れ行きがよく分かる。九州は九州地区の情報がよく分かり、中央は阪神地区、山陰地区、四国地区の事がよく分かり、奈良は全国に販売網を広げているから各地区の事がよく分かり参考になっている。

昭和54年に奈良で全国フライビンズ組合連合会として組合員全員で奈良大会を開いた。非常に景気の良い時代であった為、各関連業者の方にも出席いただき盛大に行なわれた。50年代は各関連組合も年に1～2回の大会を開いた。昭和59年には第2回として、九州別府において全国フライビンズ組合連合会として多数の出席のもと盛大に開催された。50年代は好景気不景気が交錯し、日本列島は活発に物が動いた。

昭和60年から61年にかけてバブルの時代に入り業界も浮かれた。

平成3年位からバブルもはじけ現在の不

景気につながっている。

全国豆類振興会の総会にはいつも出席し、
良い原料を輸入していただく様お願いし、
おかげで不純物、粒の面でずい分と改良さ
れてきた。今後も良い原料と適正な価格で
安定供給される事をお願いする次第です。

今の現状としてメーカーは、異物のない
良い商品を厳しく要求されるので、その様

に日々努力している。

現在の組合員数は、奈良28名、九州38名、
中央9名、東京11名で運営している。

フライビーズの歴史をざっと振り返って
みると以上の様な状態です。

最後に、安定供給、適正な単価、良い原
料を重ねてお願い申し上げます。